



総登城ウォークで高岡古城公園本丸広場に到着した参加者たち。



[問]高岡市開町400年記念事業推進室
TEL 0766-201-688

9月13日、高岡開町400年記念1年前イベントとして、高岡城総登城まつりが開催された。市内各地から高岡城跡である高岡古城公園をめざして歩く「総登城ウォーク」では、約450人が参加。本丸広場では、登城式などのイベントが繰り広げられた。

伝統産業青年会のメンバーのサポートで、真剣に取り組む参加者。岡をアピールした。

report 3

高岡開町400年へ 高岡城総登城まつり



駅地下芸文ギャラリーで開催された芸術文化学部現代GP成果展。

富山大学芸術文化学部では、平成19年度の文部科学省現代GP(現代的教育ニーズ取組支援プログラム)に採択された「出会い・試し・気づきつなぐ芸術文化教育」のコラボレーション授業前期の成果展を駅地下芸文ギャラリーにて開催した。そのひとつが、「クラフトマンズ・ギャザリング08」の告知ツールの作成。情報伝達のためのデザインとDTPを身につける授業として、学生たちが考えたデザインのなかから、高岡市デザインセンターで選考会を行い、1点を選出。印刷されたチラシはイベント告知に使用され、学官連携の取り組みとなつた。

多くの人でぎわう会場(上)。作品のひとつ、IH対応型アルミニウム製風炉(鋳造用原型)(下)。

[問]富山大学芸術文化学部現代GP事業推進室
TEL 0766-255-9281



[問]高岡伝統産業青年会
TEL 0766-233-5000
[問]いきいき富山館情報館
TEL 03-3231-5032

高岡伝統産業青年会のメンバーと、東京で活躍する若手デザイナー集団SOONが共同開発した新作が、10月末から東京南青山で開催された「骨董通りデザイン展マーチ」で発表された。

これは、地場産業をデザインでつなぐ「SOON JAPAN DESIGN PROJECT」の一環で、デザイナーからのプランを元に意見を交換し、同等の立場で商品開発をしていくというもの。SOONのメンバーは、8月に高岡を訪れ、その技術を視察。風炉やキャンドルスタンド、時計など、5つの商品が制作・発表された。このプロジェクトにより、さまざまなデザイナーとの出会いや交流などの成果がもたらされている。

report 5

高岡伝統産業青年会 骨董通りデザイン展



富山大学芸術文化学部の学生がデザインしたパッケージに入っている商品。

report 6

いきいき富山館で 高岡の魅力をPR

report 1

高岡発クラフトの最前線 「D.front」オープン

12月11日、高岡の中心市街地である御旅屋通りに、クラフトショップ「D.front」がオープンした。このショップは、「ものづくりのまち高岡」のブランド構築と中心市街地活性化を図るもので、「D.front」には、「デザイン・伝統の最前線」という意味がこめられている。

展示・販売されているのは、高岡クラフトコンペの受賞者やクラフトマンズギャザリングの出品者、地元企業のプロダクトなど、まさに“最前線”的な作品が並ぶ。

伝統的な技法で作られた現代的なデザインの器や、作り手の温もりが伝わる小物など、生活とクラフトの新しいシーンを感じさせる空間となっている。



[問] D.front(ディー・フロント) TEL.0766-22-2111
ホームページ http://www.d-front.jp/

report 2

複合素材で富山らしさを 「METAL GLASS JAPAN」

富山のものづくりの活性化をめざし、富山ガラス工房、高岡市デザイン・工芸センターが連携して、ガラス、銅、漆という素材の複合による商品試作開発「METAL GLASS JAPAN」に取り組んだ。

地元企業・作家の協力のもと、ワークショップや実験などを実施。素材の違いを見るため、漆作家黒田昌吾さんデザインの同じ形状、用途のものを素材を変えて製作。また異素材を「うめる」「ふきこむ」「はさむ」など7つの方法で複合する実験などをを行い、その成果が秋に富山・高岡両会場で発表された。この連携事業は、富山ブランドの創出をめざして進められる。



[問]高岡市デザイン・工芸センター TEL.0766-62-0520

特集 I

新クラフト産業・デザイン育成事業
「いのり」ブランド誕生 4

特集 II

工芸・クラフトに沸く高岡 7
~金屋町楽市、工芸都市高岡クラフト展、D.frontオープンなどから~

TAKUMIと道具
島谷 余一(銅器・鍛金) 11

FRONT LINE 1

高岡市伝統工芸産業技術者養成スクール 12

技伝承 12

Do!工芸体験実習
麻布を張って塗りのランチョンマット、椀、箸をつくる 13

第34回デザインセミナー
ユーザーの感動がブランドをつくる 13

ギャラリー高岡 14

地の味には、地の器
高岡漆器×和菓子 14

DETAIL OF TAKAOKA
重要有形民俗文化財 高岡御車山 15

表紙



新クラフト産業・デザイン育成事業から生まれた「いのり」ブランド。

(左)「SUI」、(右)「en」
デザイン／安次富隆
(詳細は、特集I参照)

〈写真提供・取材協力〉(50音順・敬称略)	高岡市商業観光課
安次富隆	天野漆器株式会社
	高岡市土蔵造りのまち資料館
	いきいき富山館
	高岡市美術館
	伊東順二
	今井孝雄
	内島正雄
	駅地下芸文ギャラリー
	金森家
	金屋町
	木津繁治
	三協立山アルミ株式会社
	島谷余一
	高岡市伝統産業センター
	高岡市美術館
	高岡巧美会
	財団法人 高岡地域地場産業センター
	高岡市伝統産業青年会
	高瀬竜一
	D.front
	財団法人 伝統的工芸品産業振興協会
	富山ガラス工房
	国立大学法人 富山大学芸術文化学部
	庄瀬麻起子
	株式会社スノーピーク 山井太
	大和高岡店
	株式会社 二上
	高岡菓子工業組合
	武藏川義則
	高岡金属意匠審議会

**report
7**

第8回高岡の伝統工芸品展開催 匠たちが制作体験を実施

全国伝統的工芸品センター（池袋）で開催されている「高岡の伝統工芸品展」が第8回を迎えた。今回は、9月4日から16日まで。前回初めて開催した制作体験コーナーを、3人の匠がさらに多彩な内容で実施した。

高岡漆器（螺鈿）の今井孝雄さん、漆器（木彫）の般若剛さん、銅器（彫金）の鳥田宗吾さんが講師となり、高岡の銅器・漆器の特徴的な技や作品づくりを体験してもらい、

参加者からも好評だった。

来場者からは、「いずれも伝統的ですばらしい作品」「受け継がれた技法に圧倒された」などの感想が聞かれた。

[問]高岡市デザイン・工芸センター TEL.0766-62-0520



**report
8**

高岡巧美会が生活を彩る小物を提案 匠工房見学ツアーも実施



「匠たちが贈る生活のスパイスたち」

高岡巧美会は、高岡市伝統工芸産業技術保持者として指定を受けた技術者が集まり設立。高岡市美術館で10月16日から19日まで展示会を開催した。

匠工房見学ツアーで、銅器（鋳造）の中村工房を見学する参加者。



今回は、例年の作品展示に加えて、「匠たちが贈る生活のスパイスたち」として、ネクタイピンやイヤリングなどの小物も展示。来場者の注目を集めている。

また、8月には、「技を見て体験してもらおうと、「技体験・匠工房見学ツアー」も実施。金工・漆工の工房を見学し、参加者は間近で見る技に感動していた。

[問]高岡市デザイン・工芸センター TEL.0766-62-0520

**report
9**

高岡御車山を教材に、 文化財修理講習会を実施

国が進める「地方の元気再生事業」に、高岡地域地場産業センターが提案した「文化財・大型モニュメント等修理メンテナンス産業創出支援事業」が選定され、その取り組みのひとつとして「文化財修理講習会」（金工部門、漆工部門）が開かれた。

これは、技術者養成を目的とするもので、金工部門の講師は、鳥田宗吾さん（祭屋台等製作修理技術者会会員）、

佐野宏行さん（高岡地域文化財等修理協会会員）。重



要有形民俗文化財の高岡御車山を教材に、車輪の飾金具のレプリカを製作する実践的な内容で、全4回開催された。

鑿の作り方から脂打ち出しの技法、彫金、仕上げに至るまで、高度な技に真剣に取り組んでいた。

[問]高岡地域地場産業センター TEL.0766-25-8283

**report
10**

経営資源に知的財産を活用する 最新事例を紹介



国際的に活躍する弁理士、日高一樹さんを講師に迎え、知的財産活用セミナー「意匠↔デザインをモノづくり戦略に活かす実践法」が、12月5日に開催された。

講師の日高一樹さん（日高国際特許事務所所長、弁理士）。



ものづくりをするものにとって、知的財産権が重要なことを、世界の企業を例にあげて説明。「商品を作れば模倣される。だから、マネジメントが必要」と、意匠権侵害事例とその対応、ブランド価値とデザインなどにもふれ、実際の経験も含まれた説得力のある内容に、受講者は聞き入っていた。

[問]高岡金属意匠審議会（高岡市デザイン・工芸センター内）TEL.0766-62-0520